

すぽっとライト

マイクを持って街へ
NO. 22

四国運輸局では、消費者ニーズや消費者行政上の課題を把握し、その結果を行政に役立てていくことを目的として公共交通機関の利用者等を対象にインタビューを行っています。

今回は、昨年度のバリアフリーリーダー選定委員会においてバリアフリーリーダーに選出されました(財)香川県身体障害者協会副会長 長尾 弘さんにお話を伺いました。



(財)香川県身体障害者協会
副会長 長尾 弘さん

○(財)香川県身体障害者協会ではどのようなことをされていますか。

国の規定に基づいた事業があり、それを県から協会が受けて行っています。障害者自立支援法に基づいたスポーツ振興のためのスポーツ大会や福祉大会など、行政がすべきことを協会は代わって行っています。国、県からの助成金と会費で運営しています。

県協会の上部には日本身体障害者連合会、下部には市・郡単位で支部があり、各町に分会を置いています。横のつながりとして中国四国地区協議会があります。

○協会の会員について

身体障害者手帳の交付を受けている18歳以上の方が入会できますが、個人情報保護法の関係で、新しく手帳を所有することになった方がわからなくなりました。昔は行政が教えてくれていましたが、今はそういうことはありません。私どもの組織の拡大が難しくなるというのがありますが、会員になることによるメリット、たとえば様々な支援の情報や改正された法のことなどを知ることができる、利用できるものが早く知ることができます。

また、相手の気持ちを理解し、互助の気持ちが自然とできてきます。したがって手帳所持者で入会されていない方は積極的に入会されるようお勧めします。

○今までのバリアフリー

昭和63年に綾上町役場の庁舎(現在は合併により綾川町綾上支所)ができましたが、当時はバリアフリーという考えがあまりなかったのかもしれませんが。平成5年に綾上在住の目の不自由な方から、支所前の道路から支所横にある農村環境改善センターへ行くのに点字ブロックもないので一人で対応できないからなんとかしてほしいと要望がありました。町に働きかけたところ、町長は議



会にかけなければどうしようもないということでしたので、議会にかけてもらったところ随分と議論が紛糾しました。一度は通りませんでした。私が議会で説明もするのでもう一度かけて欲しいとお願いし、再度かけてもらったところようやくやってくれることになりました。道路から支所庁舎、庁舎からセンター前まで点字ブロックを設置すること、玄関口の階段を庭園部分を崩してスロープにすること、目の不自由な人に対する職員の対応が不十分ということで、玄関口に押しボタンを設置することになりました。

トイレについてはまだ段差があるところが非常に多いですが、綾上では、身障者用トイレの設置の意見が持ち上がって、公民館と改善センターのトイレを改修しました。今は不自由なく使えるようになっています。

○これからのバリアフリー

今まで様々な施設の点検を行ってきました。身障者用駐車場が非常に遠くにあったり、カウンターに車いすが入らず非常に不便なところ、設計の都合上、エレベーターが奥にあるところなど利便性を考えていないものがありました。

こういうことから言えることは、設計の段階から障害者等施設を利用する方の意見を聞いていただくことが重要だと思います。いくら法律上の基準をクリアしていても使い勝手が悪いと使わなくなりますし、使えません。

また、使い勝手が悪いことを利用する側が言わなければ対応してもらえません。会員には積極的に活動するように話していますが、なかなか思うようにはいかないのが現状です。

現在、私は高松サポート地区に建設予定である国の合同庁舎検討委員会にも入っています。これは最初の設計段階から検討しており、これが本当のやり方かと思います。こうすることで非常にいいものができると思います。

インタビュー実施日：H21.10.1（木）聞き手：今西、井上

長尾副会長のご案内で、綾上支所のバリアフリーの状況を確認しました。



支所前道路から庁舎への点字ブロック



庁舎からセンターへの点字ブロック



農村環境改善センター側のスロープ



玄関口に設置されたスロープ



玄関口に設置された押しボタン